

議題 1. 平成 23 年度事業報告

I. 総務会 総務会

1. 委員

担当理事 坪内 政義（専務理事・愛医）、河合 富士美（聖ルカ）、
北川 正路（慈恵）、児玉 閲（東邦）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 事業報告

(1) 委員会の開催

- 第 1 回（平成 23 年 4 月 7 日）
- 第 2 回（平成 23 年 5 月 19 日）
- 第 3 回（平成 23 年 6 月 17 日）
- 第 4 回（平成 23 年 9 月 15 日）
- 第 5 回（平成 23 年 10 月 21 日）
- 第 6 回（平成 23 年 12 月 2 日）
- 第 7 回（平成 24 年 2 月 9 日）

(2) 平成 22 年度～平成 24 年度中期重点事業（目標）を継続実施した。

(3) 東日本大震災復興支援事業として、「文献無料提供」及び「重複交換雑誌被災図書館優先譲渡」を実施した。

※別添の事業報告を参照のこと。

(4) 第 82 回総会を平成 23 年 5 月 20 日に愛知学院大学楠元キャンパスにて開催した。

(5) 同分科会を平成 23 年 9 月 10 日に日本科学未来館にて開催した。

(6) 第 83 回（平成 24 年度）総会を平成 24 年 5 月 24 日（木）－25 日（金）に日本科学未来館にて開催することとし、実行委員会（委員長：児玉理事）を立ち上げた。

(7) 平成 23 年度評議員会を平成 23 年 9 月 15 日に開催した。役員選挙管理委員会を設置。

(8) 平成 23 年度地区会事務局連絡会議を平成 23 年 10 月 25 日に開催した。

(9) 平成 24 年度役員選挙の「公募数」及び「理事職務表」案を作成、理事会に諮った。

(10) 下記について、第 83 回総会に上程する方針案を作成、理事会に諮った。

- ①平成 26 年度以降の正会員 A の年会費について（旧正会員 B に関する施行方法）
- ②正会員 A（大学図書館会員）の入会単位について
- ③平成 26 年度以降の総会運営について
- ④会員略称とコード付与のルール化について

(11) 韓国医学図書館協議会（KMLA）秋季学術大会（平成 23 年 10 月 12 日－15 日）に児玉理事が参加した。

(12) 第 97 回全国図書館大会専門図書館分科会（平成 23 年 10 月 14 日）に坪内専務理事と東邦大学医学メディアセンター（堤氏、佐山氏）が参加した。

(13) 日本語資料の電子提供を主なテーマとする日本医書出版協会（JMPA）との協議を平成 23 年 12 月 12 日、平成 24 年 1 月 16 日、平成 24 年 3 月 1 日に行った。

(14) 会員の増加に伴い、会員番号を一部移動した。（中央事務局担当）

(15) 平成 23 年 12 月 2 日に認可された新定款を会員に周知した。（中央事務局担当）

(16) その他、理事会及び各委員会活動に関する検討、意見調整を行った。

2) 会員の動向

入会

正会員 A	滋慶医療科学大学院大学図書館、 千葉県立保健医療大学図書館、 東京家政大学図書館
正会員 B	国立病院機構千葉東病院図書室、 群馬県立小児医療センター図書館、 国立精神・神経医療研究センター図書館、 東京都立多摩総合医療センター図書室、 東京都済生会中央病院医療情報センター図書室、 東京都医学総合研究所図書室
正会員個人	8名
協力会員	なし
維持会員	1機関（団体）
維持会員	1名（個人）

退会

正会員 A	日本女子体育大学附属図書館、 日本体育大学図書館
正会員 B	国立ハンセン病資料館図書室、 京都市立病院図書室
正会員個人	9名
協力会員	なし
維持会員	なし（団体）
維持会員	なし（個人）

平成 24 年 3 月 31 日現在の会員数

正会員 A	101 機関
正会員 B	36 機関
正会員個人	102 名
協力会員	2 機関
維持会員（団体）	20 機関
維持会員（個人）	2 名

3) 寄付（助成金）

株式会社紀伊國屋書店

丸善株式会社

4) その他

資料の共同購入 図書館年鑑 36 冊 608,000 円

インセットテープ 16、17 回 合計 80,100 本 75,695 円

NLM 複写依頼 4,059 件 5,445,410 円

KMLA への文献複写提供実績 12 件

3. 今後の課題

平成 24 年度事業計画（案）を参照のこと。

Ⅱ. 企画・調査

企画・調査委員会

1. 委員

担当理事 青木 裕子（天理）

委員長 岸 友子（川崎）

委員 石川 明子（神常）、伊藤 淑子（個人）、土佐 智義（個人）、
山本 節子（関西）、吉富 啓子（近畿）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成23年7月8日

第2回 平成22年11月25日

第3回 平成24年3月27日

2) 東日本大震災被災調査の実施

東日本大震災における加盟館の被災状況を把握し、協会としての支援策を考え、今年度の事業（「加盟館統計」及び「重複雑誌交換」）実施についての検討材料とするため、理事会に被災状況調査の実施を提案し、承認された。4月30日を締め切りとして被災調査を行い、その結果を、6月6日付けの協会ホームページと、機関誌58巻3号、「第82次加盟館統計」の特別編として掲載した。報告のあった被災館は、他団体の被災館と合わせて、「第62回重複雑誌交換」の優先譲渡館とした。

3) 第82次加盟館統計の発行

計画どおり9月30日に完成版を協会ホームページに掲載した。また希望者に簡易製本版を販売した。（28冊）

4) 重複雑誌被災館優先譲渡の実施

第62回重複雑誌交換事業に先駆け、東日本大震災復興支援活動の一環として、JMLA被災館と他団体の被災館に対して、重複雑誌被災館優先譲渡を行うことを理事会に提案し、承認された。実施に当たっては、日本薬学図書館協議会との合同事業とし、9月8日～9月22日の期間で行った。提供館は68館、譲渡を受けた被災館は13館（JMLA外1館）、提供総冊数は1,115冊であった。

5) 第62回重複雑誌交換事業の実施

データ提出7月1日～8月1日、交換期間11月7日～12月9日、報告書提出1月6日と、計画どおり実施した。提出冊数54,394冊、申込冊数は5,782冊、受領冊数は4,976冊であった。

6) 「要覧2011」の発行

計画どおり9月に発行した。またPDF版を協会ホームページに掲載した。

7) 担当3事業アンケート調査の実施

担当3事業の今後の方向を見極めるため、アンケート調査を行い、会員の意向を調査した。

3. 今後の課題

担当3事業についてのアンケート調査の結果を、次年度事業に反映させる。

Ⅲ. 機関誌「医学図書館」編集

「医学図書館」編集委員会

1. 委員

- 担当理事 宇野 彰男（北医）
委員長 大谷 裕（東邦）
委員 泉 峰子（科学院）、岡崎 富美江（東海）、小林 晴子（愛医）、
櫻井 待子（京都）、鷹野 祐子（個人）、高畑 亜紗美（東医）、
野田 久愛（東女）、伴 英一郎（東歯）、百留 悦子（埼玉）
協力委員 細井 真弓美（北大）、関本 由美子（福島）、金子 賢一（埼玉）、
内藤 裕子（日歯潟）、万波 涼子（名市）、山下 ユミ（京府）、
黒木 和子（川崎）、阿部 佐和子（福岡）、

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- 第1回 平成23年5月12日 医学中央雑誌刊行会 会議室
第2回 平成23年9月6日 順天堂大学図書館 会議室
第3回 平成23年11月24日 JMLA 事務局
第4回 平成24年3月29日 北里大学白金図書館

2) 「医学図書館」の刊行

- 58巻1号 4月20日発行 58巻2号 6月20日発行
58巻3号 9月20日発行 58巻4号 12月20日発行
59巻1号 平成24年3月20日発行

東日本大震災の影響により、58巻1号の発行が1カ月遅れたが、以後は定時発行した。

3) 平成23年10月にJSTのJournal@rchive搭載作業が終了し、1巻から55巻までの主要な記事が無料で公開された。

3. 今後の課題

- 1) 編集システムの改修
- 2) J-STAGEへの最新号の掲載
- 3) Journal@rchive事業の際作成された、全記事データの活用方法

Ⅳ. 出版

出版委員会

1. 委員

- 担当理事 宇野 彰男（北医）
委員長 山下 和美（防医）
委員 宮明 秀幸（国医情）、村田 泰子（日医）、白土 裕子（医中誌）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

- 第1回 平成24年2月9日 JMLA 事務局

2) 出版事業

- (1) 「医中誌 Web の使い方」(仮題) 著者 諏訪部直子、平紀子
医中誌 Ver. 5 の改訂が遅れたため刊行は平成24年度とした。

- (2) 「医学図書館員のための統計学入門」(仮題) 著者 緒方裕光
ほぼ原稿は完成したが刊行は平成 24 年度とした。
- (3) 「図解 PubMed の使い方 第 5 版」 著者 岩下愛 山下ユミ
本年度の予定にはなかったが前版が品切れとなったため急遽出版することとした。全ページカラーとし、平成 24 年 3 月に刊行した。
- (4) 「やってみよう 図書館での医療・健康情報サービス」
健康情報 WG より、本総会までに出版したいとの要望があり、平成 24 年 5 月に刊行した。
- (5) 「相互利用便覧」の Web 公開についてはホームページの UMIN 移行後、平成 24 年度に実施することとした。

3. 今後の課題

- 1) 平成 24 年度以降の出版企画の立案
- 2) 委員会メンバーの補充

V. 広報 広報委員会、ホームページ担当ワーキンググループ

1. 委員

担当理事 大瀧 博久 (個人)、北川 正路 (慈恵)

広報委員会

委員長 欠員

委員 藤沢 靖子 (杏林)

ホームページ担当ワーキンググループ

委員長 川崎 かおる (岩手)

委員 岩澤 尚子 (香川)、小柳 貴俊 (九大)、今野 穂 (札幌)、
森田 ゆかり (藤田) 24. 4. 1 就任、中越 晴彦 (松歯)、中西 綾 (和歌)、
藤沢 靖子 (杏林)、森田 奈津子 (慈恵)
富田 一文 (愛歯) 24. 3. 31 退任

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回 平成 23 年 11 月 22 日 (火)

- 2) NII の学協会情報発信サービスの終了に伴い、JMLA のホームページを UMIN ホームページサービスのサーバーに移設した。
- 3) 震災対応のため、暫定対策として一時サーバーを開設した。
- 4) 新規ページとして、「専門職能力開発プログラム推進委員会」、「診療ガイドライン作成支援事業」、「助成」、「協会賞・奨励賞」各ページを新設した。

3. 今後の課題

- 1) 協会案内パンフレットの更新
- 2) JMLA ロゴの商標登録
- 3) JMLA ホームページの定期更新

VI. 雑誌 雑誌委員会

1. 委員

担当理事 児玉 関（東邦）、北川 正路（慈恵）

委員長

委員 江幡 歌奈子（東邦）、加戸 文子（阪市）、熊谷 智恵子（連中）、
南野 典子（慶應）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成23年8月31日

第2回 平成24年2月8日

2) 出版元・代理店との交渉 JPLA 雑誌問題検討委員会と合同で、出版元・代理店と平成24年契約に向けたコンソーシアム提案の交渉をのべ26回行った。交渉では、病院向け提案、日本語資料の提案、保健医療領域に特化した提案の充実を目指した。

(1) Springer から病院向け提案があったが、ILL を認めないなど前年に比べ条件が厳しくなったため、交渉を重ね、最終的に前年並みの提案となった。

(2) Thieme とは、新たな病院向け提案の交渉を行った。条件が折り合わず、今回は見送られた。

(3) Nature とは、平成25年に向けて新たな病院向け提案の交渉を始めた。

(4) 医学書院とは、Medical Finder のコンソーシアム提案について交渉を行ったが、平成24年については見送られた。平成25年提案に向けて協議を継続している。

(5) 文生書院から、中国オンラインデータベースの提案があり、加盟館のニーズを探るため、アンケートを実施した。平成25年提案を予定している。

(6) Royal Society of Medicine からコンソーシアム提案の希望があった。平成25年提案実現に向け、協議を続けている。

(7) エディターシップからコンソーシアム提案について相談があった。平成25年提案実現に向けた協議を予定している。

(8) American College of Physicians からコンソーシアム提案があった。協議を始める予定。

3) 電子ジャーナル・コンソーシアム説明会の開催 JPLA 雑誌問題検討委員会と合同で、協会事業として、電子ジャーナル・コンソーシアム説明会を開催した。

(1) 大阪会場：平成23年9月6日(火) 大阪市立大学医学情報センターホール 参加者：49名(JMLA26名、JPLA23名) 参加企業：20社(展示19社、プレゼン18社)

(2) 東京会場：平成23年9月9日(金) 日本科学未来館 参加者：128名(JMLA75名、JPLA53名) 参加企業：21社(展示21社、プレゼン19社)

※参加者数には委員も含む。JMLA/JPLA 両加盟館はJMLAでカウント。

4) 大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)との連携 JUSTICE と AAAS/Science のコンソーシアム提案について、共同で交渉した。その他の提案についても意見交換を行った。

5) その他

(1) 出版元・代理店との交渉をスケジュール化、委員へ担当分担を行い、交渉体制を整えた。

(2) 電子ジャーナル・コンソーシアム説明会の協会事業化を実現した。

(3) 交渉経緯を Web で公開した。

(4) 平成25年交渉に向けて、加盟館に平成24年提案に関するアンケートを実施した。

- (5) 加戸委員、熊谷委員が定年のため3月で辞任。加戸委員の後任は宮本委員(阪医)にお願いすることになった。熊谷委員の後任は未定。
- (6) 平成24年度から、電子ジャーナル・コンソーシアム説明会の名称を、コンソーシアム説明会に変更することとした。

3. 今後の課題

- 1) 委員長を中心とした体制での委員会運営の実現
- 2) 委員の補充と増員
- 3) 分担購入・分担保存のあり方についての検討

Ⅶ. 教育・研究 教育・研究委員会

1. 委員

担当理事 平 紀子(北療)、磯野 威(個人)
委員長 諏訪部 直子(杏林)
副委員長 加藤 砂織(東女)
委員 牛澤 典子(東邦)、西村 志保(日医)、市川 美智子(愛医)、
山田 有希子(東厚年)、真下 美津子(連中)

2. 事業報告と年間目標の達成状況

- 1) 委員会の開催
第1回 平成23年5月31日
第2回 平成23年7月12日
第3回 平成23年9月14日
第4回 平成23年12月20日
- 2) 日本薬学図書館協議会合同委員会の開催 平成23年7月12日
- 3) 第18回医学図書館員基礎研修会(関東地区)
日時:平成24年8月3日(水)~5日(金)
会場:東京慈恵会医科大学
テーマ:医学図書館印のステップアップ:若葉マーク脱却を目指して、一緒に学ぼう
受講者数:79名
- 4) 第18回医学図書館研究会・継続教育コース(中国四国地区)
日時:平成24年11月9日(水)~11日(金)
会場:広島大学医学部広仁会館
テーマ:Eな時代のライブラリアンの立ち位置を考えよう!
継続教育コースⅠ:文献検索中級
継続教育コースⅡ:
 1. 乳癌診療ガイドラインは如何に作られたか
 2. 論文を書くために知っておくべき著作権とは受講者数:研究会 40名(演題発表9件)
継続教育コースⅠ 41名、継続教育コースⅡ 35名
- 5) 第13回図書館総合展フォーラム 平成23年11月11日(金)
会場:パシフィコ横浜
テーマ:社会貢献のための図書館ネットワークを考える:震災時復興に向けた健康医療

情報の提供

参加者数：101名

- 6) 地域連携シンポジウム開催（日本薬学図書館協議会共催）
日時：平成23年11月5日（土）
会場：高山市図書館
テーマ：医療・健康情報を考える in たかやま
参加者数：17名
- 7) 研究助成および海外研修助成募集
研究助成：応募2件、採択2件
海外研修事業：応募1件、採択1件
- 8) 医療・健康情報研修（医療・健康情報サービス研修ワーキンググループ）
 - (1) 公共図書館向け医療・健康情報サービス研修会プログラム開発、
テキスト「やってみよう 図書館での医療・健康情報サービス」の執筆
会議開催 平成23年9月15日、12月19日
 - (2) 市民への医療・健康情報サービスに関する研修会実施
 - ①大分県宇佐市民図書館研修会：11/26（土）～11/27（日）
受講者15、18名
 - ②宮崎県立図書館研修会：11/28（月）～11/29（火）
受講者30、41名
- 9) 教育プログラムマニュアル改訂
- 10) 平成23年度日本医学図書館協会 協会賞・奨励賞選考（協会賞・奨励賞選考委員会）

3. 今後の課題

- 1) 平成23年度計画として掲げた「ヘルスサイエンスおよび関連分野の情報サービス専門家に必要な知識と技術の範囲の検討」は専門職能力開発プログラム推進委員会が中心となっており、当委員会はその報告を受けて意見を出すにとどまった。今後、研修機会の格差を是正するための方策を、専門職能力開発プログラムに沿った形で検討し、実現していくこと。
- 2) 奨学基金に関わる事業の運用を策定すること。

Ⅷ. 認定資格運営 認定資格運営委員会

1. 委員

担当理事 平 紀子（北療）、磯野 威（個人）

委員長 酒井 由紀子（慶應）

委員 阿部 潤也（東歯）、城山 泰彦（順天）、永田 治樹（立教大）
山崎 むつみ（静がん）、山下 ユミ（京府）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成23年6月13日（月）協会中央事務局

認定審査作業 平成23年8月29日（月）同上

第2回 平成23年9月14日（水）同上

第3回 平成23年12月20日（火）順天堂大学

第4回 平成24年2月21日(火) 協会中央事務局

2) 申請募集と認定審査

第16回申請(平成23年7月受付)

審査件数:27、認定件数:27

(基礎11、中級5[新規3,更新2]、上級11[新規5、更新6])

第17回申請(平成24年1月受付)

審査件数:22、認定件数:22(基礎18、中級2[新規2]、上級2[新規2])

現存数(第17回申請まで):284名(基礎213名、中級19名、上級52名)

3) 教育研究委員会との連携推進

- (1) 審査作業の便宜を考え、認定資格ポイント数を添えた「JMLA 研修時間数一覧」を作成し、同委員会と共有することとした。
- (2) 第18回医学図書館研究会の日程について同委員会から確認があり、認定資格のポイントの数え方の観点から回答した。
- (3) 「文献検索医中誌 Web・PubMed 講習会」の標準化について同委員会から確認があり、認定資格の種類との整合性の観点から回答した。
- (4) 検討中のポイント表改訂に関連して、研修および講師のポイントの数え方の変更について同委員会委員長へ打診した。
- (5) 医学図書館員基礎研修会、医学図書館・研究会の協力員を学協会活動のポイント表に反映させるために、名簿または委嘱状の発行を確認した。
- (6) 基礎資格の認定要件となっている「協会主催の研修会への全日程参加」を緩和し、「研究会・継続教育コース」に限り、「研究会」と「継続教育2コース」は別の回の参加でも要件を満たすこととし、同委員会にも確認した。第18回募集(2012年7月)から「申請の手引き」を改訂し、別途広報を行う予定。
- (7) 医学図書館員基礎研修会へ認定資格運営委員を派遣し、紹介と広報活動を行うことを企画した。2012年8月開催予定の第19回(愛知)からの実施を計画中。

4) 広報の強化

- (1) 協会ホームページの目次に「ヘルスサイエンス情報専門員」の文字を追加した。
- (2) 申請者の便宜をはかり、ポイントの対象期間も含めた「認定資格スケジュール」を協会ホームページにアップした。また、更新者の便宜と一般への広報のために Web 上の認定者名簿に中級・上級認定者それぞれの有効期限を追加した。
- (3) 新規に開始した広報先(いずれもチラシ・ポスター)は以下のとおり。
第72回私立大学図書館協会総会・研究大会9月1~2日(早稲田大学)
近畿病院図書室協議会第123回研修会12月11日(関西労災病院)

(4) チラシ・ポスター改訂版作成

第18-21回(2012年7月~2014年1月)を対象としたものを作成。

会長の写真とメッセージ、および認定取得者から公募した写真を掲載。

5) 規程およびポイント表の整備

- (1) 規程の整備を行った。1)2009年分科会での指摘、日本図書館協会認定司書の規程および内規を参考にし、不足していたパートタイム等の実務経験の数え方、審査の手続き、中級および上級で更新しないと基礎となる件、異議申し立て、守秘義務について追加した。2)会員名称変更に伴う用語の合致を行った。3)専門学協会活動のポイント一部必須化、ポイント表改訂に伴う必要ポイント数の増加の案を作成した。
- (2) ポイント表の改訂作業を行った。1)審査時の具体的な扱いの内部文書を作成し、維持することとし、2)研修/講師のポイントの数え方と出版物の種類によるポイントの整合性を調整、3)学協会活動の必須化に備え、受託事業ワーキンググループほか JMLA の活動を

ポイント表に追加した。

6) 関係機関との連携（広報以外）

- (1) 関連機関の研修広報に本協会認定資格の「ポイントの対象」である旨の記載について、研修会を事前認定しているとの誤解が生じないように文言変更について協力依頼を行った。
- (2) 東海北陸地区国立大学図書館協会より、複数の同会主催研修会参加者から本協会の認定資格申請のために修了証の発行を求められたことから証拠書類について問合せを受けた。説明すると共に関連するホームページ上のQAをわかりやすく改訂した。
- (3) 審査作業を円滑に進めるため、関連団体の役職について委嘱状の発行の促進について協力依頼を行った。

3. 今後の課題

- 1) 委員会、事務局との業務分掌を明文化して共有する。
- 2) 社会的認知度を向上させるためのプロモーショングッズを作成する。
- 3) 取得者による広報支援のための「活用の手引き」を協会ホームページに掲載して普及させる。
- 4) 専門職能力開発プログラム案実現に向けた体制づくりを行う。

Ⅸ. 専門職能力開発

専門職能力開発プログラム推進委員会

1. 委員

担当理事 平 紀子（北療）、磯野 威（個人）

委員長 諏訪部 直子（杏林）

委員 酒井 由紀子（慶應）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成23年6月13日

第2回 平成23年7月12日

第3回 平成23年12月20日

2) 第82回総会分科会B「専門分野の図書館員の能力開発プログラムは今」を開催

日程：平成23年9月10日

会場：日本科学未来館

座長：野添篤毅

話題提供：

岩隈道洋「法コンシェルジュ養成講座コアカリキュラムについて」

秋元敏「日本図書館協会認定司書 第1回認定事業を終えて」

諏訪部直子「日本医学図書館協会の専門職能力開発プログラム案」

参加者：30名程度

3) 専門職能力開発プログラム案作成および関係者からの意見収集

(1) 総会分科会、地区会事務局連絡会、関東地区会におけるプログラム案の説明。

(2) 掲示板の設置やメーリングリストでプログラム案に対する意見募集。

(3) 専門家と医師による有識者懇談会を開催。

4) 新カリキュラム案に基づく研修会を下記の通り開催

「図書館員のための医学の基礎知識講座」

日時：平成 24 年 2 月 3 日（金）

会場：北里大学白金キャンパス 薬学部 1 号館 1203 講義室

参加者：65 名

3. 今後の課題

- 1) 当委員会で作成した専門職能力開発プログラム案を、認定資格運営委員会、教育・研究委員会と連携しながら後継の組織で検討し、最終案を固め、総会で承認を得る。
- 2) 職能集団として行動規範となる倫理規定を策定する必要がある。

専門職能力開発プログラム推進委員会報告

1. 経緯

平成 22 年 2 月 ・アンケート調査実施

平成 22 年 5 月 ・第 81 回総会にてアンケート調査結果と「5 つの提言」を発表
・分科会 B「医学図書館員の専門性とキャリア育成」にて「5 つの提言」を解説

平成 23 年 9 月 ・第 82 回総会分科会 B「専門分野の図書館員の能力開発プログラムは今」にて、専門職能力開発プログラム（知識とスキル、教育、認定資格、モデル活動）案を提示

平成 24 年 2 月 ・有識者懇談会（医師、図書館情報学専門家、担当理事、専務理事、委員、事務局）

2. 専門職能力開発プログラム案（抜粋）

平成 23 年総会分科会において、下記表に「コンピテンシー」と称する「活動モデル」を加えた同プログラム案を提示した。

必要な知識とスキル			基盤レベル		レベルI		レベルII	
			図書館の一般的業務		医学図書館の基礎的業務		医学図書館の発展的業務	
グループ	分野	領域	研修	認定	研修	認定	研修	認定
0	特:協会活動	専門職学会の活動						
1	A)保健・医療	① 医学知識	/		JMLAコア	基礎 ・経験2年 ・コア修了	JMLA-CE	中級 上級 ・経験5/10年 ・CE修了 ・資格 ・学歴 ・講師 ・実績
		② 医学研究、医療政策等、医療を取り巻く情勢、問題点に関する						
2	B)保健・医療分野の情報サービス	③ 利用者の情報ニーズと情報	司書課程	基礎 ・司書資格	JMLA-CE 保健・医療 JMLA研究会	中級 ・経験5年 ・CE修了 ・資格 ・学歴 ・実績	JMLA-CE 保健・医療	
		④ 医学情報資源や資料の管理						
		⑤ 情報技術						
3	C)情報サービスの基礎	⑥ 教育に必要な知識・技能	/		外部		外部	上級 ・資格 ・推薦
		⑦ 科学的研究に関する理解と自身で研究を進める能力						
		⑧ 外国語						
3	D)ビジネススキル	⑨ マネジメント能力	/					
		⑩ 個人の資質						
↑ 2009年2月実施のアンケートから提示			↑ 専門職能力開発プログラム推進委員会の提案(認定については参考案)					

3. 専門職能力開発プログラム案に関する広報と意見交換のための活動

地区会事務局連絡会にて説明（平成 23 年 10 月）、掲示板設置・各種メーリングリストにて意見募集および委員会メールで意見受付開始（平成 23 年 11 月）、関東地区会にて説明（平成 24 年 1 月）

4. 新研修プログラムの試行

2で定めた必要な知識とスキルのうち、協会として行ってこなかった「医学知識」に関する研修会「図書館員のための医学の基礎知識講座」（上記表の領域①レベルIに相当）を、平成24年2月3日に北里大学白金キャンパスにて試験的に実施した。参加者は66名（会員50名、JPLA5名、非会員11名）であった。

5. 課題

以上の活動および文献調査を含めた情報収集の結果、以下のことを課題として確認した。

- ・プログラム案全体は細かすぎて論点がわからない。
- ・必要な知識とスキル、レベル分けについて反対は示されなかった。
- ・モデル活動については、能力と役割が混在しており、内容やそのレベルにも疑問が示された。
- ・特に研修について様々な内容と形式が提案されたが、位置づけと実行可能性に精査が必要。
- ・新認定資格制度は未確定事項が多く、現行制度との整合性も含め多くの課題がある。
- ・「医学の基礎知識講座」は定員を上回る応募があり、他の地域での開催の要望が寄せられる等関心が高かった。
- ・社会に認められる専門職とするには、倫理規程を定める必要がある。
- ・

6. 今後の展望

当委員会の活動は平成24年5月で終了するが、後継組織を設置し、プログラム完成と実施に向けて継続して検討する必要がある。

X-1. 受託事業 受託事業委員会

1. 委員

担当理事 坪内 政義（専務理事・愛医）、河合 富士美（聖ルカ）、
北川 正路（慈恵）、児玉 閲（東邦）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会等の開催

- (1) 委員会として会議を持たず、総務会で全体を統括した。
- (2) それぞれの事業はワーキンググループや研究班を組織して活動した
- (3) 診療ガイドラインワーキンググループは全国会員から構成され、リーダーを、阿部信一氏（慈恵）、河合富士美氏（聖ルカ）、鈴木孝明氏（奈良）、諏訪部直子氏（杏林）、山口直比古氏（個人）に依頼している。

2) 診療ガイドライン作成支援－診療ガイドラインワーキンググループ

※X-2. 事業報告を参照のこと。

3) 研修・講義受託事業

- (1) 医療・健康情報研修を、以下のとおり受託し、実施した。

①大分県宇佐市民図書館「医療・健康情報調べ方講座」

平成23年11月26日（土）～27日（日）

講師：塚田薫代氏（静岡県立こども病院図書室）

医療・健康情報調べ方講座 基礎編

講師：平 紀子氏（北海道医療大学図書館、日本医学図書館協会理事）

医療・健康情報調べ方講座 専門編

②宮崎県立図書館「医療・健康情報サービス研修会」

平成 23 年 11 月 28 日（月）～29 日（火）

健康情報サービス研修ワーキンググループ

講師：柚木 聖氏（浦安市立図書館）

講師：塚田薫代氏（静岡県立こども病院図書室）

講師：諏訪部直子氏（杏林大学医学図書館）

講師：高橋宏美氏（相模原市立図書館）

以上、2 件とも、庶務・進行は牛澤典子氏（東邦大学医学メディアセンター）

※教育・研究委員会（研修 WG）の事業報告を参照のこと。

4) 医学中央雑誌刊行会受託事業

(1) 平理事を代表とする研究「一般の方への医中誌 Web の提供についての調査」を継続。

(2) 医中誌 Web「Version 5」の Web チュートリアル作成を受託したが、Version 5 の運用が安定せず、未着手となっている。

3. 今後の課題

- 1) JMLA の社会的・学術的活動の普及、会員のスキルアップ、収入の安定化を目的とする。それらは効果をあげているが、事業遂行のために、会員への負担が増大することのないよう考慮する必要がある。

X-2. 受託事業 診療ガイドラインワーキンググループ

1. 委員

担当理事 河合 富士美（聖ルカ）

委員長 河合 富士美（聖ルカ）

委員 川崎 かおる（岩手）、高橋 奈津子（聖隷）、成田 ナツキ（個人）、
谷口 今日子（富山）、萩原 泰子（信州）、森正 智子（昭和）、
山崎 むつみ（静がん）、山館 優子（岩手）、山口 直比古（個人）、
愛知医科大学医学情報センター（代表：小林 晴子）、大阪市立大学学術情報総合センター医学分館（代表：岩佐 孝司）、杏林大学医学図書館（代表：諏訪部 直子）、東京慈恵会医科大学学術情報センター（代表：阿部 信一）、東京女子医科大学図書館（代表：三浦 裕子）、東邦大学医学メディアセンター（代表：大谷 裕）、名古屋市立大学総合情報センター川澄分館（代表：久田 睦美）、奈良県立医科大学附属図書館（代表：鈴木 孝明）、日本医科大学図書館（代表：渡辺 由美）、広島大学図書館霞図書館（代表：藤井 武志）

【下線＝リーダー】

※柿田憲広氏（愛歯）と鈴木絢氏（個人）にもご協力をいただいた。

2. 事業報告と年間目標の対する達成状況

1) 委員会の開催

第 1 回リーダー会 平成 23 年 11 月 22 日

- 2) 受託状況についての詳細は別紙一覧を参照のこと。今年度受託ガイドラインは 17 件、うち、1 件は契約後に取り下げ。前年度以前受託のガイドラインについても委員会出席、検

索式清書、出版社への原稿提出・校正などの作業があり、業務多端であった。

- 3) 昨年度上級講習会に参加した2名にご協力をいただいた。今後は地区会からの選出に加え、希望者が委員となれるよう委員の委嘱方法を変更することとした。
- 4) 文献検索マニュアル(案)を作成し、WG委員に配布した。
- 5) リーダー会で文献検索マニュアルの改訂、文献検索講習会上級開催、認定ポイントの設定と作業費改訂、文献手配などを検討した。

3. 今後の課題

- 1) リーダーの負担が大きいため、ガイドライン作成委員会に出席し、検索のとりまとめができるリーダーの育成が必要である。
- 2) 質の高い検索をするため受託につき何らかの基準を設け、件数のコントロールが必要である。
- 3) 検索式をデータベース化し、参照できるシステム作りが必要である。

2011年度受託ガイドライン一覧

ガイドライン名		学会		検索担当者		委員会出席	
GL1101	眼瞼		日本形成外科学会	成田(個人)、愛医			
GL1102	漏戸胸		日本形成外科学会	中止			
GL1103	耳介先天異常		日本形成外科学会	森正(昭和)			
GL1104	感染創		日本創傷外科学会	リーダー：河合、柿田(愛歯)			
GL1105	CIDP/MIMN		日本神経学会	リーダー：河合、愛医、名市、山崎(静がん)	2011.09.02沖繩(河合)、2011.11.03東京(河合・坪内)、2012.01.07東京(河合)、2012.03.31東京(河合)		
GL1106	ギランバレー/フィッシャー症候群		日本神経学会	慈恵	2011.08.27東京(阿部)、2011.11.05東京(阿部)、2012.01.22東京(阿部)		
GL1107	細菌性髄膜炎		日本神経学会	東邦	2011.11.05東京(河合)		
GL1108	重症筋無力症		日本神経学会	リーダー：山口(個人)、川崎(岩手)	2011.09.16東京(山口)、2012.01.26東京(山口)		
GL1109	ALS		日本神経学会	萩原(信州)、谷口(富山)、成田(個人)	2011.10.10東京(河合)、2011.11.23東京(河合)、2012.04.08東京(河合・萩原)		
GL1110	腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン		日本腎臓学会ほか	奈良、河合			
GL1111	顔面神経麻痺		日本形成外科学会	杏林			
GL1112	眼瞼下垂症		日本形成外科学会	日医			
GL1113	腋臭症		日本形成外科学会	リーダー：河合、山館(岩手)			
GL1114	小児慢性便秘症		小児慢性便秘ワーキンググループ	河合			
GL1115	小児ネフローゼ症候群		日本小児腎臓病学会	河合	2012.02.17東京(河合)、2012.04.20福岡(河合)		
GL1116	泌尿器腹腔鏡		日本泌尿器内視鏡学会	奈良			
GL1117	鼻骨・鼻篩骨骨折		日本頭蓋顎顔面外科学会	リーダー：河合、山館(岩手)			

XI. 国立ヘルスサイエンス情報センター

国立ヘルスサイエンス情報センター検討委員会

1. 委員

担当理事 山田 久夫（個人）、磯野 威（個人）
委員長 山田 久夫（個人）
委員 阿部 信一（慈恵）、内生蔵 洋子（聖マ）、加藤 治（科学技術振興機構）、
坪内 政義（愛医）、成田 俊行（個人）、三沢 一成（医中誌）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成23年4月15日
第2回 平成23年9月8日
第3回 平成34年4月19日

2) 活動内容

- (1) 委員会名を「国立ライフサイエンス情報センター(仮称)推進準備委員会」から「国立ヘルスサイエンス情報センター検討委員会」に変更した。
- (2) 第82回総会において、会員に向けて本活動の今後を問うべくプレゼンテーションをおこなった。
- (3) 地区会に対して、会員がこれまでどのように考えてきたのか、新たな提案があるのかを問うアンケートを依頼した。
なお、(1)(2)(3)の活動経緯の詳細は、議事要録、総会資料、「医学図書館」59巻1号「広場（委員会紹介）」欄にて参照することができる。
- (4) 平成23年8月8日（月）、「からだところの情報センター」ワーキンググループの会合を開催し、他図書館団体の出席も得て当該ホームページをさらに拡充しつつ維持していくこと確認、分担範囲など当面の活動方策を決定した。

3. 今後の課題

本委員会の活動は、協会活動の方向性や根幹の活動方針に直結するので、協会執行部特に理事会と強く連携しつつ、会員とのコミュニケーションを充分図らねばならない。

XII. 組織・制度

組織・制度委員会

1. 委員

担当理事 北川 正路（慈恵）
委員長 尾崎 聖太郎（麻布）
委員 加藤 恵子（国がん）、新谷 知之（東海）、土佐 智義（個人）

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 委員会の開催

第1回 平成23年4月8日（木）
第2回 平成23年6月16日（木）
第3回 平成23年9月16日（金）
第4回 平成23年12月1日（木）

第5回 平成24年1月27日(金)

第6回 平成24年3月22日(木)

2) 定款の改正案の作成

標記改正案を作成して、理事会に提出した。

理事会で協議した改正案が、第82回総会にて承認された。

3) 細則、規程類の改正案の作成

東京都から認証された(平成23年12月2日付)新定款に基づき、標記改正案を作成して理事会に提出した。

3. 今後の課題

1) 正会員BからAへと変更となった会員の平成26年度以降の年会費の移行

2) 会員の義務と権利の明確化

3) 議事要録、協会作成文書の形式の統一

4) 平成25年度総会での審議に関する事項

XIII. 部会 病院部会

1. 幹事

奥出 麻里(千メセ) 連絡責任者

岩下 愛(国医療)、加藤 恵子(国がん)、河合 富士美(聖ルカ)、熊谷 智恵子(連中)、

安田 多香子(愛がん)

2. 事業報告と年間目標の達成状況

1) 幹事会の開催

第1回 平成23年9月10日

第2回 平成24年2月23日

2) 病院部会定例会

第82回総会分科会において定例会を開催した。参加者11名。

3) 分科会

第82回総会分科会において分科会C「NIIを知ろう：病院図書館のNII参加に向けて」を担当した。

4) 見学会

平成24年2月23日に埼玉医科大学国際医療センターの見学会を開催した。参加者15名。

3. 今後の課題

1) 幹事の補充

幹事の内、2名(岩下氏、熊谷氏)が今年度で退任のため、補充が必要である。

東日本大震災復興支援 文献無料提供活動報告

1. 支援概要

- 本活動は、東日本大震災により学術情報を入手しにくい状況にある被災地域の大学、病院、医療関連機関、医療者、あるいは救護活動に従事する医療者に対し、必要とする文献を無料で提供するものである。
- 文献の申込を JMLA が受付し、JMLA 内の協力館が送付する。協力館が文献送付にかかった経費は JMLA が負担する。
- 平成 23 年 4 月から 5 月末日までという期間で、出版元・代理店、JMLA 加盟館から協力を得て、実現した。その後、震災規模の大きさから、引き続き支援が必要と判断され、期限は平成 24 年 3 月 31 日まで延長された。

2. 結果

- 文献申込総数は 650 件、実際に送付した件数は 641 件、謝絶は 9 件だった。
- 送付件数は、月平均約 54 件あった。4～5 月の平均は 56 件であったのに対し、6～3 月の平均は約 54 件で、震災直後と 3 ヶ月目以降で大きな差はなかった。
- 最多は 11 月の 88 件、最少は 1 月の 5 件であった。しかし 2 月に 62 件、3 月に 82 件の申し込みがあり、ニーズは依然として高いといえる。
- 申込機関は、5 県 14 機関であった。内訳は、宮城県が 6 機関(すべて病院)、福島県が 5 機関(大学 2、病院 3)、青森県、栃木県、茨城県が各 1 機関(すべて病院)だった。
- 14 機関中 5 機関が日赤関係で、文献提供先に偏りが見られた。
- 申込は医師によるもの全体の 1/3 を占め、本サービスが医師側にも伝わっていたと考えられる。
- 協力館は 39 館あり、窓口館(AI、TI)と合わせて 41 館体制で、文献の提供を行った。実際に文献を提供したのは 41 館中 33 館だった。
- 秋以降、入手しにくい文献の申込が見られるようになった。医中誌に協力を依頼し、協力館で入手出来ない文献は医中誌が無料で提供してくれることになった。
- 文献の提供は大半が大学図書館だが、病院や研究所の図書館も可能な限り協力してくれた。
- 文献の提供方法は、震災直後は E-mail を活用したが、6 月以降は出版元・代理店の協力を得られないものが増えたことから、FAX、郵便の利用が増えた。
- 協力館で文献送付にかかった経費のうち、JMLA に請求された総額は 17,810 円(62 件)だった。多くの協力館が経費負担をしてくれた。
- Special Thanks!
 - 出版社、代理店、学会 (文献提供)
 - 加盟館 (文献提供)
 - ホームページ WG (HP 作成)
 - 奈良県立医科大学附属図書館 (代替 HP 提供)

3. 申込状況

1) 総数

申込件数：650 件 送付件数：641 件 謝絶件数 9 件

2) 月別申込数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受付	48	64	54	15	32	54	82	88	64	5	62	82	650
送付	48	63	53	15	31	54	81	87	63	5	60	81	641
謝絶	0	1	1	0	1	0	1	1	1	0	2	1	9

3) 申込機関数

				受付 件数	送付 件数	謝絶 件数	合計
1	青森労災病院	青森県	病院	3	3	0	3
2	石巻赤十字病院	宮城県	病院	16	15	1	16
3	仙台赤十字病院	宮城県	病院	8	8	0	8
4	仙台逡信病院	宮城県	病院	15	14	1	15
5	仙台徳洲会病院	宮城県	病院	50	50	0	50
6	気仙沼市立病院	宮城県	病院	74	72	2	74
7	国立病院機構仙台医療センター	宮城県	病院	10	10	0	10
8	奥羽大学	福島県	大学	4	4	0	4
9	呉羽総合病院	福島県	病院	129	128	1	129
10	星総合病院	福島県	病院	29	29	0	29
11	福島県立医科大学	福島県	大学	4	4	0	4
12	福島赤十字病院	福島県	病院	39	38	1	39
13	大田原赤十字病院	栃木県	病院	245	242	3	245
14	水戸赤十字病院	茨城県	病院	24	24	0	24
	合計			650	641	9	650

4) 県別機関別申込件数(送付済みのみ)

	大学	病院	合計
青森県		3	3
宮城県		169	169
福島県	8	195	203
栃木県		242	242
茨城県		24	24
合計	8	633	641

5) 申込者別申込件数

	送付	謝絶	合計
医師	221	4	225
図書館員	420	5	425
	641	9	650

4. 受付・送付状況

1) 機関別受付件数

機関		送付数	機関		送付数	機関		送付数
1	静岡県立こども病院図書室	4	12	KBJ	5	23	SIK	2
2	AI	191	13	KE	4	24	SL	8
3	AL	1	14	KO	4	25	SR	1
4	CMC	7	15	KR	3	26	SR	5
5	CR	3	16	KU	5	27	SW	19
6	GD	3	17	KW	11	28	TG	7
7	HG	2	18	KY	15	29	TI	257
8	HI	4	19	NK	4	30	TK	8
9	IM	12	20	NM	10	31	TO	10
10	JC	2	21	NS	7	32	TR	1
11	JK	20	22	OS	5	33	YH	1
							合計	641

※東邦の件数には、平成23年12月からの医中誌による無料提供が含まれる。

2) 機関種別受付件数

機関種別	送付件数
大学	585
病院	36
その他	20
合計	641

3) 送付方法別送付件数

送付方法	送付件数
E-mail	88
FAX	293
郵便	260
	641

4) 清算

62件 17,810円